

読者のみなさんのご応募、お待ちしております。

桑畑の幻想

おか みさこ

初冬 霜柱を踏んでこの街に辿り着いた
家々の裏手に黒土の畑が点在し
うつむき加減に並ぶ桑の木
じつと忍耐の姿勢を崩さない
養蚕に活路を求めた半農の暮らしが
わたくしは この街で息子を育て
新しい命をはぐくもうと決めた

黄昏の風景に見入るとき

この選択に狂いはないと確信した
西空が朱に染まる対岸の丘陵地
幻想の別次元かと見紛うばかり
収穫を祝う宴か 仲間と生きる集団の喜びか
狩りから帰る古代人の歓喜がこだまする

町外れの雑木林には

こんこんとわき出る地下水がある
命をつなぐ稲作を試みたのか
試行錯誤の水田跡に影を映すと
鏡の大地に橋がかかり

昔人の暮らしの一端が氷解す
わたしたちは遺跡の原をさすらい
土に帰れぬ陶器の欠片を拾っては
バズルのように並び替え 謎解きに興ずる
時を費やす遊びの中に
歴史をまさぐる一筋の絆があった

読者から寄せられた

まちだの



読者のみなさんが感じている「町田ならではの四季の風景」を詩や俳句、川柳、イラスト、写真などで自由に表現していただくコーナー、まちだの春夏秋冬。第二回目は冬をテーマにした詩を二編、紹介したいと思います。

非常に力強さを感じる詩ですね。おかさんが初めて町田に来て、初めて見た風景ひとつひとつに感じるものがあって、様々な想像をめぐらせた……そんなおかさんの様子も、おかさんが見た風景も、読み手側にしっかりと伝わってくる素晴らしい作品だと思います。

さて第三回目、春号（2012年3月5日発行）でもみなさんの作品をお待ちしています。読者の皆さんがそれぞれに感じている「町田の春」作品、ぜひお寄せください！

※作品が掲載された方には、下記の招待券を呈呈します。

浮世絵 —国芳から芳年へ—

近年は「奇想の絵師」としても注目をあつめている歌川国芳（1797～1861）。武者絵に洋風の風景画、説話画や美人画など、さまざまなジャンルで幕末に活躍した浮世絵師です。国芳の弟子である月岡芳年（1839～92）は、当代一の人気絵師として明治期の浮世絵世界の第一線をつねに走りつづけました。本展では、国芳と芳年の作品を中心に、幕末明治期の浮世絵をご紹介します。約120点展示。

- ◆会場：町田市立国際版画美術館
〒194-0013 東京都町田市原町田 4-28-1
TEL: 042-726-2771/0860
※小田急線・JR横濱線町田駅より徒歩15分
<http://hanga-museum.jp>
- ◆会期：2012年3月3日（土）～4月1日（日）月曜休館
- ◆時間：火～金は10:00～17:00（入場は16:30まで）
土・日・祝は10:00～17:30（入場は17:00まで）
- ◆観覧料：一般＝600（500）円、大・高生と65歳以上＝300（200）円
※（ ）内は20名以上の団体料金です。
※身体障がい者手帳または愛の手帳等をご持参の方と付き添いの方1名は半額となります。
※展覧会初日3/3（土）は入場無料です。
※中学生以下は入場無料です。



月岡芳年「風俗三十二相」より
「遊歩がしたさう 明治年間 妻君之風俗」
1888（明治21）年 木版多色

■応募方法

ハガキ、FAX、Eメールで応募可能です。作品とそれにまつわるエピソードなどを明記の上、ご応募ください（写真は郵送いただくか、デジタルデータの場合はEメールに添付してください）。※住所（〒）、電話番号、氏名、年齢、性別、ペンネームを必ず記入してください。

■応募締め切り 2012年1月20日（金）

■応募先

〒107-0052 東京都港区赤坂4-11-3
株式会社ナカハラプリンテックス
まちびと編集部

FAX: 03-5568-1304
Eメール: machibito@npweb.com

